

JAL研究の成果を教育現場へ。 「働く」を「チーム」の視点で考える授業。

立命館高校GLコース2年生 ●「働くとは」Teaming@Companyへ」

授業設計・実施：RITALABO（金井文宏） 授業設計：RITALABO（谷口悦子）

2017年5月、稲盛経営哲学研究センターの金井文宏・谷口悦子グループのJAL教育プラットフォーム研究をもとにした教育プログラムとして、特別授業「働くとは」Teaming@Companyへ」を、立命館高等学校GL（Global Leader）コース2年生を対象に実施しました。研究から得た成果―考え方を变えることで働き方・組織行動が変わり、会社が変わっていくこと―を、「他者との協働（チーミング）のあり方を考察する」という視点で、授業を構成しました。

背景の異なる人と協働するためには？

京セラ名誉会長の稲盛和夫氏を会長に迎え、経営破綻後に史上最速の復活を果たしたJALの意識改革を例に、考えを变えることが自身の行動も変え、ひいては社会（会社）も変える力を持つことを伝える授業。企業理念を実現するために社員が持つべき具体的な考え方「フィロソフィ」が、共通の価値観や言語となつて、社員相互のコミュニケーションを高め、協働しやすくなることを紹介しました。

2015～17年のJAL調査で

は、好きなフィロソフィとして、「渦の中心になれ」「最高のバトンタッチ」を挙げる社員が多く、意識改革により活性化した職場では、「渦の中心になれ」を体现するような職場風土（誰でもCSを提案し渦を起こしやすく、渦が起こるとそれをサポートする周りの人々がいる、上司は渦を育てようとしてくれる）が醸成されることわかつています。「渦の中心となれ」というフィロソフィは、組織であればどこでも適用が可能な、組織行動の理想的モデルとなり得るのではないのでしょうか。

本授業では締めくくりとして、JALの現場の変化についての研究結

果を示しながら、生徒自身で渦を作ることを考える。生徒自身の組織行動について考え、クラスや部活動、地域や家庭でアクションを起こすことを皆で考え合うワークを行いました。

JALフィロソフィを部活やクラス活動に活かす。

JALの授業は、2016年度に立命館守山中学校で授業が始まり、さらに企業で協働して働くことにフォーカスして設計・実施しました。その結果、三つのことがわかりました。



生徒の意見をグラフィック・レコーディングで受け止め、インタラクティブな授業を行いました。



- ① JALフィロソフィは生徒にも響き、それぞれの生活の中でも行動の軸となり得る考え方である。
- ② 経営破綻を乗り越え再生を果たし

授業後の生徒の感想

JAL フィロソフィ・企業理念

- JAL フィロソフィの中の言葉はとても自分の心に響くものが多いので、自分もこの中の言葉を座右の銘にしようかなと思いました。
- 最高のバトンタッチ→これは私が昨年やっていた議長、学年代表、今年の副議長の仕事に役立つ考え方だと思います。

進路選択

- 自分達も大学を卒業したら、社会に出て、どこかに就職するから、やっぱり人間関係とか、自分の能力をいかせて、認められるような会社を選びたいと思いました。
- この授業を受けて、初めて経営哲学という言葉を知りました。そして、今までは『働く』という行為そのものが、ただ金を稼ぐための行為という印象でしたが、この授業で働くという行動が自分を高め、他の人を渦に巻き込み高めあう、人生を豊かにする行動であるということが、分かりました。今回の授業を活かし、仕事を選択しようと考えました。

JAL の意識改革・企業風土への共感

- JAL みたいに、自分の仕事を誇りとして、みんなに話せて、みんなも自分がしている仕事を認めてくれたらもっと頑張ろうと思えるからとてもいい会社だと思いました。社長は遠い上の存在で話したことないし、自分のこと知らないだろうな一みみたいな会社がまだまだ多いと思います。でも JAL みたいに、下っぱの人でも社長と本音で話し合える機会があることがすごく良い環境をつくって、人気で強い会社をつくり出したんだなと思いました。一度、底まで落ちてしまった JAL をここまで大胆なやり方ででも成功させた稲盛さんの発想が本当にすごくて、そういう大胆な考え方を持つことも大切だと思います。

企業で働くことの認知変化

- 会社は決まった型に社員が合わせていくのではなく会社に勤めている人全員で会社をつくりあげていくという事です。いつもは教科書などの書物を読んで、景気の悪循環や行政の動きをその言葉で頭にインプットしていました、もちろん知識としてとり入れられますが、1つのことにフォーカスをさだめて深く、深く掘り下げる事はあまりなかったので今回 JAL という一つの会社にフォーカスして研究されている先生の講演がきっかけで本当に感謝でいっぱいです。
- 僕はこれまで、会社とはどちらかというと特に良いイメージはなく、オフィスなどで決められた仕事を作業的にこなすだけのように思っていました。しかし、今回授業で紹介された JAL はそういう所ではなく、働いている人、一人ひとりが主体的に考え、行動してどうすれば効率が良いか、どうすればお客様が喜んでくれるかということを目指していたのでとても新鮮に感じました。また、与えられたノルマではなく、自分で考えて行動しているので、なんだか働いて楽しそうだなと感じました。

立命館高校生に人気のフィロソフィ

再生の鍵となった企業理念について、「最高のバトンタッチ」「渦の中心になれ」等の JAL フィロソフィを題材に疑似的に JAL のミーティングを体験する内容となり、活発な意見交換が行われました。立命館高校 GL コースの生徒に人気があった JAL フィロソフィトップ3は、以下の通りです。

「常に明るく前向きに」

(4名)

- 暗い状況でも明るくいくことでポジティブになれる。ポジティブだと良い方向に向く。
- ネガティブになったら自分だけではなく周りの雰囲気まで悪くしてしまいかねないから。前向きだと何事にもチャレンジしていけるから。
- ネガティブはいいことがなく、自分で可能性を消してしまう。ポジティブだったら一つひとつの物事が楽しめる。
- 人生暗いより明るいほうが楽しいから。

「楽観的に構想し、悲観的に計画し、楽観的に実行する」

(4名)

- なるほどと思ったし、部活とかでも当てはまるから。こう思ったら気楽に目標を目指す。
- 特に理由はないが。
- 仕事において一番成功につながると感じたから。
- 最初から悲観的に始めても何も変わらないし、言葉通りだと思うから。

「地味な努力を積み重ねる」

(4名)

- 本当にその通りだと思うし、地味な努力を続けることが大切だと思うから。
- 毎日部活の朝練に行き、40分ぐらいだけ続けて結果が出るように頑張っているから。
- よく分からない事でも、いつものちのち役に立つことがあるから。私自身、大きいものに取り組むより、地味な作業が好きだから。
- ありきたりな言葉だけど、努力は必ず報われる。能力は人によって様々なので、自ら努力を徹底する。

た企業を事例にすることで、働くことに対するイメージが具体的、かつポジティブになる。

③ 進路選択を目前にする生徒にとつては、高校・大学の先の就職をイメージし、進路選択の一つの価値基準を示すいい機会となる。

この結果も踏まえ、対象者の学年や目的（キャリア教育・社会科など）によって、細やかな教材作成をするなど、よりこの研究を題材とした教材づくりを発展させていきたいと考えます。

(RITA7号より)